

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月10日

上場会社名 株式会社アルファ 上場取引所 東
 コード番号 3434 URL <https://www.kk-alpha.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚野 哲幸
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 坂井 庸人 (TEL) 045-787-8401
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無 (機関投資家・アナリスト向け個別ミーティング有)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	46,025	16.6	172	△33.4	968	123.4	654	134.1
2022年3月期第3四半期	39,461	19.4	258	—	433	—	279	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 4,109百万円(281.6%) 2022年3月期第3四半期 1,077百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	68.38	—
2022年3月期第3四半期	29.26	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	63,528	31,753	48.0	3,185.41
2022年3月期	56,183	27,924	47.6	2,798.03

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 30,524百万円 2022年3月期 26,763百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	10.00	—	20.00	30.00
2023年3月期	—	10.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	20.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,000	11.6	700	19.3	1,300	25.4	700	16.6	73.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	10,200,000株	2022年3月期	10,200,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	617,555株	2022年3月期	634,995株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	9,574,962株	2022年3月期3Q	9,559,589株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内外の経済情勢は、コロナ禍からの正常化の動きは見られるものの、ウクライナ情勢の長期化等による原材料・エネルギー価格の高騰、世界的な物価上昇によるインフレの長期化懸念、金融引き締め策等が下押し要因となり、景気の先行きも未だ不透明な状況にあります。

このような状況の中、当社グループの主要関連産業であります自動車産業におきましては、半導体供給不足や中国でのロックダウンなどによる得意先での減産や生産調整の影響が長期化しております。セキュリティ機器事業の関連産業であります住宅設備産業におきましては、新築住宅着工戸数は資材高騰の影響により注文住宅では減少、その他、分譲住宅と賃貸住宅は前年度とほぼ同水準に推移しております。また、同じくセキュリティ機器事業の関連産業であります旅行・レジャー産業におきましては、コロナ禍における移動制限の解除に伴い急速な回復を見せております。

このような事業環境の中、当社グループは引き続き従業員・関係者の安全の確保、手許資金の流動性確保、固定費の削減、サプライチェーンの確保を推進してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は460億25百万円と前年同四半期に比べ、65億63百万円(16.6%)の増収となりました。利益につきましては、それぞれ営業利益は1億72百万円と前年同四半期に比べ、86百万円(△33.4%)の減益、経常利益は9億68百万円と前年同四半期に比べ、5億34百万円(123.4%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億54百万円と前年同四半期に比べ、3億75百万円(134.1%)の増益となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 自動車部品事業(日本)

自動車部品事業(日本)におきましては、依然として半導体供給不足に伴う得意先減産の影響は大きく受けたものの、売上高は64億82百万円と前年同四半期に比べ、10億70百万円(19.8%)の増収となりました。一方、原材料費やエネルギー費等の高止まりにより、セグメント損失は1億66百万円(前年同四半期はセグメント損失3億24百万円)となりました。

② 自動車部品事業(北米)

自動車部品事業(北米)におきましては、依然として半導体供給不足に伴う得意先減産の影響を大きく受けたものの、円安進行に伴う為替換算の影響等から、売上高は90億96百万円と前年同四半期に比べ、13億98百万円(18.2%)の増収となりました。一方、原材料費やエネルギー費等の一段の上昇により、セグメント損失は4億68百万円(前年同四半期はセグメント損失1億77百万円)となりました。

③ 自動車部品事業(アジア)

自動車部品事業(アジア)におきましては、ASEANでは新車向け受注品の量産開始等で売上増となったものの、中国では半導体供給不足に伴う得意先減産に加え、ロックダウンによる影響を大きく受けました。為替換算の影響等もあり、売上高は137億70百万円と前年同四半期に比べ、14億75百万円(12.0%)の増収となりました。一方、原材料費やエネルギー費等の一段の上昇によりセグメント利益は5百万円と前年同四半期に比べ、3億10百万円(△98.2%)の減益となりました。

④ 自動車部品事業(欧州)

自動車部品事業(欧州)におきましては、依然として半導体供給不足に伴う得意先減産の影響を大きく受けており、売上高は80億7百万円と前年同四半期に比べ、68百万円(0.9%)の増収にとどまりました。一方、原材料費の高止まりに加え、エネルギー費の大幅上昇等により、セグメント損失は3億7百万円(前年同四半期はセグメント損失67百万円)となりました。

⑤ セキュリティ機器事業(日本)

セキュリティ機器事業(日本)におきましては、住宅市場での電気錠の認知や需要の高まりにより、前年同期に比べて住宅関連製品の売上は好調に推移しました。

ロッカーシステム事業については、レジャー・旅行客の増加に伴い、オペレーション収入は急速に回復しました。また、物販については貴重品ロッカー、ゴルフ場向け更衣ロッカー、テーマパーク向けコインロッカー、無人販売機等の販売が好調に推移し、売上は前年度を上回りました。さらに、主要顧客である鉄道事業でも乗降客数の戻りにより設備投資マインドが回復してきていることから、ターミナルロッカーの販売増も見込まれます。一方で、電子部品の調達遅れの懸念は未だ解消されていない状況です。なお、売上高は94億97百万円と前年同四半期に比べ、23億65百万円（33.2%）の増収、セグメント利益は13億39百万円と前年同四半期に比べ、6億23百万円（87.1%）の増益となりました。

⑥ セキュリティ機器事業(海外)

セキュリティ機器事業(海外)におきましては、日本向け製品の生産増により、売上高は59億2百万円と前年同四半期に比べ、18億67百万円（46.3%）の増収、セグメント利益は4億9百万円と前年同四半期に比べ、82百万円（25.3%）の増益となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は635億28百万円となり、前連結会計年度末に比べ、73億44百万円の増加となりました。また、有利子負債は前連結会計年度末に比べ、14億12百万円増加し、181億24百万円となりました。

流動資産は、受取手形及び売掛金が21億53百万円増加したことや、原材料及び貯蔵品が14億53百万円増加したこと等により、53億15百万円増加し、358億42百万円となりました。

固定資産は、機械装置及び運搬具が14億34百万円増加したこと等により、20億30百万円増加し、276億79百万円となりました。

流動負債は、支払手形及び買掛金が12億16百万円増加したことや、短期借入金が12億67百万円増加したこと等により、33億72百万円増加し、206億8百万円となりました。

固定負債は、長期借入金が4億46百万円増加したこと等により、1億43百万円増加し、111億65百万円となりました。

純資産は、為替換算調整勘定が34億50百万円増加したこと等により、38億28百万円増加し、317億53百万円となりました。

以上により、自己資本比率は前連結会計年度末の47.6%から0.4ポイント増加し、48.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきまして、2022年11月10日に公表いたしました連結業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,432	6,796
受取手形及び売掛金	12,994	15,148
電子記録債権	1,039	1,140
商品及び製品	1,794	2,298
仕掛品	1,228	1,472
原材料及び貯蔵品	5,057	6,511
その他	2,195	2,555
貸倒引当金	△214	△81
流動資産合計	30,527	35,842
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,306	4,846
機械装置及び運搬具（純額）	7,177	8,611
工具、器具及び備品（純額）	2,542	2,606
土地	1,618	1,742
その他（純額）	3,277	3,207
有形固定資産合計	18,923	21,014
無形固定資産		
のれん	1,304	1,208
その他	1,707	1,825
無形固定資産合計	3,011	3,033
投資その他の資産		
投資有価証券	3,099	3,002
その他	614	757
貸倒引当金	-	△128
投資その他の資産合計	3,713	3,631
固定資産合計	25,649	27,679
繰延資産	7	5
資産合計	56,183	63,528
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,404	7,621
短期借入金	6,349	7,617
未払法人税等	341	332
賞与引当金	376	427
製品保証引当金	344	339
その他	3,419	4,270
流動負債合計	17,236	20,608
固定負債		
社債	380	240
長期借入金	7,517	7,964
退職給付に係る負債	218	238
資産除去債務	42	42
リース債務	1,526	1,410
その他	1,337	1,269
固定負債合計	11,022	11,165
負債合計	28,258	31,774

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,760	2,760
資本剰余金	2,960	2,962
利益剰余金	18,247	18,614
自己株式	△567	△551
株主資本合計	23,400	23,785
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,507	1,432
為替換算調整勘定	1,855	5,306
その他の包括利益累計額合計	3,362	6,738
非支配株主持分	1,161	1,229
純資産合計	27,924	31,753
負債純資産合計	56,183	63,528

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	39,461	46,025
売上原価	33,839	39,976
売上総利益	5,622	6,048
販売費及び一般管理費	5,363	5,876
営業利益	258	172
営業外収益		
受取利息	28	25
受取配当金	53	77
為替差益	92	776
不動産賃貸料	16	18
助成金収入	20	41
スクラップ売却益	97	0
その他	53	106
営業外収益合計	363	1,046
営業外費用		
支払利息	148	143
その他	40	108
営業外費用合計	189	251
経常利益	433	968
特別利益		
固定資産売却益	21	16
投資有価証券売却益	172	-
特別利益合計	193	16
特別損失		
固定資産売却損	3	7
固定資産除却損	2	13
子会社清算損	-	9
特別損失合計	6	30
税金等調整前四半期純利益	620	954
法人税、住民税及び事業税	351	417
法人税等調整額	△33	△51
法人税等合計	318	365
四半期純利益	302	588
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	22	△66
親会社株主に帰属する四半期純利益	279	654

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	302	588
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△140	△74
為替換算調整勘定	915	3,595
その他の包括利益合計	774	3,521
四半期包括利益	1,077	4,109
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	961	4,030
非支配株主に係る四半期包括利益	115	78

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（追加情報）

（1）グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用

当社及び国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。）に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

（2）新型コロナウイルス感染症及びロシア・ウクライナ情勢の影響に関する会計上の見積り

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した、新型コロナウイルス感染症及びロシア・ウクライナ情勢の影響を含む仮定及び会計上の見積りについて、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自動車 部品事業 (日本)	自動車 部品事業 (北米)	自動車 部品事業 (アジア)	自動車 部品事業 (欧州)	セキュリテ ィ機器事業 (日本)	セキュリテ ィ機器事業 (海外)	計		
売上高									
顧客との契約から 生じる収益	4,003	7,620	11,952	7,738	7,051	1,032	39,398	—	39,398
その他の収益	—	—	—	—	63	—	63	—	63
外部顧客への 売上高	4,003	7,620	11,952	7,738	7,114	1,032	39,461	—	39,461
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,409	76	341	201	17	3,002	5,049	△5,049	—
計	5,412	7,697	12,294	7,939	7,132	4,035	44,511	△5,049	39,461
セグメント利益 又は損失(△)	△324	△177	316	△67	715	326	790	△531	258

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去40百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△572百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自動車 部品事業 (日本)	自動車 部品事業 (北米)	自動車 部品事業 (アジア)	自動車 部品事業 (欧州)	セキュリテ ィ機器事業 (日本)	セキュリテ ィ機器事業 (海外)	計		
売上高									
顧客との契約から 生じる収益	4,960	9,056	13,139	7,811	9,425	1,576	45,969	—	45,969
その他の収益	—	—	—	—	55	—	55	—	55
外部顧客への 売上高	4,960	9,056	13,139	7,811	9,481	1,576	46,025	—	46,025
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,522	40	630	195	16	4,325	6,731	△6,731	—
計	6,482	9,096	13,770	8,007	9,497	5,902	52,756	△6,731	46,025
セグメント利益 又は損失(△)	△166	△468	5	△307	1,339	409	811	△638	172

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去△19百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△619百万円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。